興天寺にて[[1]](#footnote-1)

香山光郎

しばらく小生は東小の古寺で生してゐます。

　　　　　寂照庵にて

　　古寺や位牌ならび僧一人

位牌が五十ばかりありました。日が五十でそこから金が入つて行者一人が萬日□をやつてゐるのださうです。ありがたいことぢゃありませぬか。

　　木鐸のに更けゆくかな

　　をししてかな

昨とても冷えて付かず、こんなことをへました。

1. 『京城日報』1940年3月17日 [↑](#footnote-ref-1)